

9月9日公演（昼公演）では、神楽衣装について、司会と字幕で解説します。初の神楽衣装の解説です。三番叟、大蛇、手力男之命（タジカラ）の衣装を可能な限りですが、字幕と協同して、わかりやすく司会が語ります。

#### 【三番叟の衣装解説】

- ・三番叟はどの芸能でも大抵同じ装束です。
- ・直垂と呼ばれる装束の表着（うわぎ）には、背中に鶴が翼を広げた絵柄が施されています。
- ・能や歌舞伎では黒地の正絹に金糸を用いた刺繡で描かれています。
- ・直垂とは上下セットの装束なので、下も黒地に金糸刺繡です。
- ・千早の下には赤い二引半着付（にひきはんきつけ）を着用します。
- ・垣澤社中では身軽さを重要視し、垣澤純子さんの発案で大漁旗の染色技法で作り上げました。
- ・昔は神楽師が手描きで鶴を描いていたそうです。
- ・しかし垣澤社中では動きやすさを重視しているので、表着は千早（ちはや）と呼んでおり、

下は切袴を用います。

- ・足袋は以前は白足袋でしたが、他の芸能を取り入れ、最近はウコン足袋を用いています。
- ・鳥帽子は剣先鳥帽子（けんさきえぼし）。山頂が剣の先に見えるから。
- ・毛は黒かしきを用います。毛は半紙と水引でまとめます。

#### 【大蛇の衣装解説】

- ・鱗文様を必ず用いる。鱗はすべての芸能に共通で、人間ではない邪惡な者、化け物に用います。
- ・表着は半着付のみ。
- ・下はたっつけ袴。地面を這いするため、大口袴や切袴は用いません。
- ・足は昔は素足、最近は色足袋を用いています。
- ・赤か茶の中振毛を用います。

#### 【タジカラの衣装解説】

- ・柄ものの手甲脚絆を用います。
- ・闇夜の世界を歩いてくるため、草履を履きます。
- ・鎧下と呼ばれる着付けを着用します。
- ・大口袴を着用します。
- ・掛鎧を着用します。お腹には枕と呼ばれるあんこを入れます。
- ・石帶をします。その上から綿の入ったしごき帯をします。

- ・黒の大振毛を用います。その上から鉢巻をします。
- ・烏帽子は唐冠と呼ばれる冠を用います。能では真っ黒ですが、垣澤社中では色鮮やかに描いています。
- ・武力の象徴の矛を用います。岩戸を開ける際には使いません。